

✿ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ✿

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 小学生読書リーダー養成講座司書教諭説明会

今年の小学生読書リーダー養成講座は、学校指導課と学校図書館支援センターの共催で6月10日、17日、24日の土曜日に3日間開催されます。そこで、この養成講座の実施のために各学校の司書教諭に説明を行いました。

はじめに、学校図書館支援センターから昨年度実施した講座の様子や今年の実施要領について説明がありました。そのあと、学校指導課から学校の読書活動の成果や小学校読書リーダーの活動など（学校図書館支援センターの説明）



（学校指導課の説明）

の説明がありました。特に、学校の月平均読書冊数が伸びている要因のひとつに小学生読書リーダーの活動があることや、今年の養成講座の申込みが78校（前年より10校増加）、275人（前年より39名増加）で増加しているということでした。養成講座の様子は、次号で報告します。

※小学生読書リーダーとは、学校で読書の楽しさや面白さを伝えるリーダーです。下級生には、小学校読書リーダーの大切さを伝えることも大事な役目です。小学生読書リーダー養成講座を一日受講することで小学生読書リーダーになれます。



Hello! 学校図書館

今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

1 福浜小学校

子どもたちが本に興味や関心をもち、少しでも本を読むようにするために、季節に合った掲示をしたり、上級生が選んだ本を展示したりしていました。

○ 図書館入口



（入口のドアの前にウエルカムボード）

○ 図書館前方



（書棚に新刊）



（たくさん本を読んだ子の紹介）

○ 図書館の中央から後方



(図書館の読書スペースと書架を分ける中央の書架) (中央の書架の上には図書委員の子のおすすめの本の紹介)
図書館の入口にウェルカムボードがあるなど、図書館担当の先生の指導や取組みが随所に見える図書館でした。

2 玄界小中学校

図書館が広く、図書館の果たす3つの機能(読書センター, 学習センター, 情報センター)をきちんと備えた理想的な図書館でした。

○ 図書カウンター付近



← (写真手前に図書カウンター、奥に一段高くなりカーペットを敷いたスペース)

(調べ学習用の机) →



← (本棚の上の方には大型絵本)

(図書館カウンターは、直線的な配置) →



○ 図書館のパソコン



(調べ学習に使えるパソコン5台)

○ 書架



(本の高さに応じて棚板の位置が細かく変更可能)



各学校の図書館が、玄界小学校の図書館のように整備してほしいと思いました。

7月生まれの文学者たち



森山 京（もりやま みやこ）ときいろいバケツ

昭和4年7月10日 東京都生まれ

森山京氏は、兵庫県立福崎高等女学校卒業後、40歳から創作を始めました。

昭和43年「子りすが五ひき」で講談社児童文学新人賞佳作を受賞しました。「きいろいばけつ」「つりばしゆらゆら」などの「きつねのこ」シリーズで路傍の石幼少年文学賞、その後、小学館文学賞、野間児童文芸賞、ひろすけ童話賞を受賞し、平成21年「ハナと寺子屋のなかまたち」で赤い鳥文学賞を受賞しました。

「きいろいばけつ」は、きつねのこが道に落ちている黄色いバケツを見つけとても欲しくなりますが、母きつねから1週間待つように言われます。そこで、毎日バケツを見に行きますが、1週間後、きいろいバケツが突然なくなるという話です。

ロングセラーの「きいろいばけつ」「おおきくなったら」「ともだちほしい」の主人公の動物たちには、名前もつけず、ただうさぎのこ、きつねのことして登場させ、個性豊かに動物たちを描いています。

森山氏は、化粧品の宣伝コピーとしてとても有名で「25歳はお肌の曲がり角」という言葉をつくった人として知られています。



上橋菜穂子（うえはしなほこ）と精霊の守り人

昭和37年7月15日 東京都生まれ

上橋菜穂子氏は、立教大学文学部史学科卒業後、大学院博士課程を修了した児童文学作家、ファンタジー作家です。文化人類学者でもあります。

上橋氏は、幼い時から父方の祖母から多くの民話を聞くだけでなく、母からは「モモちゃんとブー」、父からは「西遊記」など両親からも多くの本を読んでももらいました。初めて自分で選んで読んだ本は「王様の剣」でした。多くの物語を読むとともに幼い時から物語を作ることを目指していました。

「精霊の守り人」は、バルサという30歳の女用心棒が、新ヨゴ皇国の第2皇太子チャグムを助け、守るために奮闘する物語です。この物語の草稿を担当の編集者に見せた時、「子どものお母さんみたいな年代の女性を主人公にして」と言われました。けれども、上橋氏は、ある程度若くて経験豊かな大人の女性が少年を守って戦うというイメージと、精霊や神という異界と人の世界がふれあう時に生じる不思議な世界に関係するという二つのイメージで物語を書いてみたいと思い、この物語を一気に書き上げました。

上橋氏の「守り人シリーズ」は、物語に関連性があるので、次の順番で読んだ方がよいそうです。

1. 「精霊の守り人」
2. 「闇の守り人」
3. 「夢の守り人」
4. 「虚空の旅人」
5. 「神の守り人」＜来訪編＞
6. 「神の守り人」＜帰還編＞
7. 「蒼路の旅人」
8. 「天と地の守り人」第1部＜ロタ王国編＞
9. 「天と地の守り人」第2部＜カンバル王国編＞
10. 「天と地の守り人」第3部＜新ヨゴ皇国編＞

♪ 福岡アジア美術館 「7月の案内」 * * * * *

* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ：（7月）

9日（日），11日（火）

・時 間： 11：30 ～12：00 ， 13：00～13：30

・場 所： 7階「キッズコーナー」（申し込み不要）

おいでよ！絵本ミュージアム2017

・会 期： 7月20日 ～8月20日 ※会期中無休

・時 間： 10：00 ～18：00 （入場は17：30まで）

・料 金： 一般1000（800）円 ， 高・大生700（500）円
小・中学生500（300）円 ， 未就学児（無料）

※（ ）内は前売り，団体料金

・内 容： 夏休み恒例のイベント

11回目を迎える今回のテーマは、「いっしょに」。

絵本を通して，いっしょに遊んだり，創ったり，暮らしたり，冒険する楽しさ，家族や仲間がいることの大切さ，参加するおもしろさを伝えるべく，五感に働きかける様々なオブジェ，絵本の世界観を感じることができる空間をプロデュースします。読み聞かせやワークショップなどのイベントも毎日開催をします。



7月20日～8月20日 福岡アジア美術館

（おいでよ！絵本ミュージアム2017）のポスター
（c）たちもとみちこ

♪ 福岡市総合図書館「7月の案内」 * * * * *

* 毎月のお話し会：（7月）

1日（土），2日（日），8日（土），9日（日），15日（土）

16日（日），22日（土），※23日（日），29日（土），30日（日）

*時 間： 土曜：14：30～（幼児向け） 日曜：14：30～（幼児向け），15：15～（幼児～小学生向け）

*場 所： 「こども図書館 おはなしの家」

※23日（日）は、「一日お話し会」（幼児～小学生向け） 10：30～11：45，13：00～15：45



□ 図書館員のひみつの本棚 《No.134》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが，毎月素敵な本を紹介してくださる楽しいコーナーです。

子どもたちが本に関心を持ち，本を手にするようになるためには，大人である私たちが本を読む姿勢を見せることが大切です。

今回の本は，高校生や大人の私たちが読むのにぴったりの本です。

✿ 今月の本

『そして，僕は旅に出た。』

大竹 英洋／著

あすなろ書房

2017年 2052円

♪ あとがき * * * * *

梅雨に入り，雨の日が多くなります。「晴耕雨読」という言葉がありますが，子どもたちに晴れた日には外で遊び，雨の日には室内で読書をすることを勧めたいものです。

学校の図書館を訪問していますが，どの学校も季節に応じた図書館の環境づくりに努めていることがわかります。そんな図書館は，子どもたちにとってうれしいことと思います。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。学校から図書館や読書活動に関する情報をお待ちしています。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話： 7 1 1－4 6 5 5 F A X： 7 3 3－5 5 3 8

図書館員のひみつの本棚 第134回

今回は久しぶりに中高生から大人向けの本をご紹介します。

『そして、ぼくは旅に出た。』

大竹 英洋／著 あすなろ書房 2017年 2052円

<お勧め年齢>

乳幼児—— 小低学年—— 小中学年—— 小高学年—— 中学生☆☆
高校☆☆☆ 一般 ☆☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

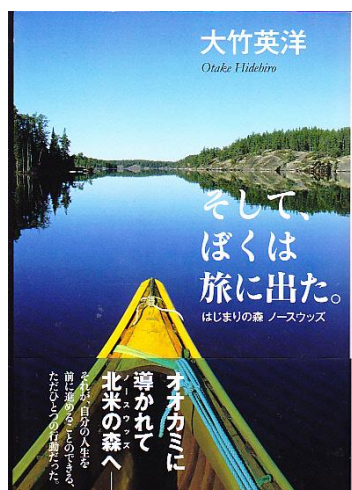
<本の紹介>

現在は写真家である著者の原点となる旅の記録。

写真家を志望しているものの、写真の勉強なんてほとんどしたことがない。そんな著者が、大学4年生の秋にたった一度見たオオカミの夢に導かれるように、世界的な写真家ジム・ブランデンバーグに弟子入りを請うべく、日本ではほとんど知られていない北米の湖水地方ノースウッズへと旅に出る。

もちろんジムとは面識なんてない。オオカミの夢を見た後、オオカミのことをもっと知りたいと思い図書館に行き、偶然見つけた彼の写真集を見て感動し弟子入りを決めたのだ。ジムに手紙を書いたが返事がない。返事がないということは NO と言われたわけじゃない！ジムに直接会って答えを聞いてみよう！そう考えた著者は、雑誌のジムの特集記事と、ジムの写真集に手書きで書かれていた地図と、写真集に写りこんでいたジムの小屋とおぼしき小屋の写真を頼りに、一度も行ったことがないアメリカの、地図にもほとんどのっていない町、イリーを目指したのだった。

そして、そんな彼を待っていたのは、広い世界と、厳しくも美しい自然、そして、出会った人々の優しさだった。



<子どもに手渡す時のポイント>

巻末に文中に出てきた本が紹介されているので、この本を気に入った生徒にはぜひそれらも手渡してあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか